

(4) 石油精製業

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
天気図マーク; ● 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

- ・平成15年度の需要は、ガソリン自動車保有台数の伸びや電力需要増の影響等で、ガソリン60,347千KL(前年度比+0.7%)、重油60,846千KL(同+2.0%)と増加したが、暖冬の影響や軽油自動車保有台数の減少などにより、灯油29,119千KL(同4.9%)、軽油37,986千KL(同3.8%)となり、燃料油全体では241,403千KLと前年度比0.6%の減少となる見込み。
- ・平成16年度の需要は、ガソリン60,835千KL(前年度比+0.8%)、灯油29,588千KL(同+1.6%)は増加が見込まれるものの、ナフサ48,460千KL(同0.2%)、軽油36,753千KL(同3.2%)、B・C重油24,456千KL(同20.3%)は減少が見込まれることから、燃料油全体では234,981千KL(同2.7%)と減少が見込まれる。

(2) 設備稼働(平成15年度)

- ・常圧蒸留設備(許可ベース能力):492万B/D
- ・同 設備稼働率:82.6%(前年度比:1.4ポイント増)

(3) 企業収益

精製・元売大手6社の経営動向(連結ベース)(単位:億円、%)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度(予想)
売上高	142,372	147,235	146,690
営業利益	2,756	2,835	—
経常利益	2,440	2,635	3,675
純利益	688	580	1,740
経常利益率	1.7	1.7	2.5

- ・平成15年度決算において、売上高は前年度比+3.4%の増加となった。営業利益・経常利益とも、これまでの経営合理化によるコスト削減効果や原油高騰分の製品価格への転嫁効果などにより、増益となった。なお、純利益は減損会計の前倒実施によりマイナスとなっている。
- ・平成16年度業績予想は、有利子負債の削減など経営合理化計画に基づき、コスト削減を引き続き行うほか、減損会計等による損失処理が減少すると見込まれることから、ほとんどの社は経常利益、純利益ともに増益を見込んでいる。

(4) 財務

平成15年度の精製・元売大手6社(連結ベース)の有利子負債残高は、36,940億円と、前年度に比し4,107億円の大幅な減少となっており、平成16年度においても引き続き削減を行い、財務体質の強化に取り組む方向。

2．設備投資動向

(1)これまでの設備投資の推移

石油産業の設備投資は、昭和62年度から順次実施されてきた精製設備許可の弾力化、SS建設等の規制緩和等に加え、内需拡大とも相俟って昭和63年度3千億円台から平成3年度には6千億円台へと推移してきた。

しかし、平成4年度の680億円台をピークとして、以降は景気の低迷を受け、平成12年度には、1千億円を下回る水準まで減少してきた。

(2)平成15年度設備投資見込み

平成15年度設備投資見込みは、1,101億円で、前年度比97億円（8.1%）の減少となっている。主な要因としては、低硫黄化対策投資やセルフSSの利用者増と不採算SSの合理化を反映した投資は増加しているものの更新投資の落ち込みが大宗を占めている。

(3)平成16年度の設備投資計画

平成16年度の設備投資計画は、1,860億円で、前年度比+759億円（+69.1%）を見込んでいる。主な要因としては、低硫黄化対策投資がもっとも多く、更新投資を兼ねた合理化投資やセルフSS設置関係の合理化投資が引き続き計画されている。なお、情報化投資については、管理部門の効率化、生産の効率化等を中心に行われており、ほぼ前年度並と見込んでいる企業が過半を占めている。

3．長期資金調達・運用動向

設備投資所要資金については、ほとんどの企業が減価償却による内部資金の範囲内で手当するよう計画されており、借入金を返済し、有利子負債の削減を図る傾向にある。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

